

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和5年5月15日（月）午後2時から3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米副委員長 中嶋委員 日高委員 井上委員 神山委員 大熊委員		
欠 席 委 員	なし		
事 務 局 員	碓井文化財係長 高木文化財係主任（学芸員）		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報 告</p> <p>(1) 令和4年度の事業報告について</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 令和5年度の事業計画について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 梶家文書（寄託資料）の点検作業について</p> <p>4 次回の市史編さん委員会日程</p> <p style="padding-left: 2em;">第2回 令和5年10月30日（月）午前10時</p> <p>5 配付資料</p> <p>(1) 令和4年度の事業報告（資料1）</p> <p>(2) 令和5年度の事業計画（資料2）</p> <p>(3) 梶家文書の点検について報告（資料3）</p>		

会 議 結 果

碓井文化財係長 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、令和5年度第1回市史編さん委員会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。私は生涯学習課文化財係長の碓井と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず、新しい委員をご紹介させていただきます。委員のうち、第3号委員、市職員のうち副市長でございますが、前副市長の小沢が令和4年12月31日付で副市長を退任いたしました。新たに令和5年4月1日より神山副市長が着任しておりますので、引き続き委員ということによってよろしく願いいたします。それでは神山副市長、簡単にご挨拶をお願いいたします。

神山委員 改めましてこんにちは。令和5年4月1日付で副市長に着任いたしました神山伸一でございます。どうぞよろしく願いいたします。

小金井市につきましてはまだまだ不慣れではございますけれども、委員の皆様いろいろなご指導いただきながらこの委員の任務を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

碓井文化財係長 ありがとうございます。

また、市史編さん事務局の体制につきましてですが、こちらは4月1日付で人事異動がございまして、前生涯学習課長の関が会計課に異動となり、代わりに保育課より三浦真・新生涯学習課長が着任しております。本日、委員の皆様にご挨拶申し上げるべきところではございますが、所用のため、本日欠席させていただいております。大変恐縮ですが、また次回以降、ご挨拶させていただければ、と思っておりますので、よろしく願いいたします。その他の体制につきましては変更ございません。

それではこの後の委員会の議事進行につきましてですが、根岸委員長は本日ご出席いただける予定ではございましたが、まだお越しになられていらっしゃるため、本日の会議につきましては、牛米副委員長に議事進行をお願いさせていただきたいと思っております。それでは牛米副委員長、よろしく願いいたします。

1 報告

(1) 令和4年度の事業報告について

牛米副委員長 それでは、次第に沿って議事を進めてまいりたいと思っております。まず、「1 報告」の「(1) 令和4年度の事業報告について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

高木主任(学芸員) それでは、「(1) 令和4年度の事業報告について」につきまして、私の方からご報告させていただきます。

令和4年度におきましても、非常に多くの事業を実施しておりますため、要点を絞った形でご報告させていただきます。

まず、「市史編さん委員会」につきましては、令和2～3年度におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響を受け、止むを得ず開催を中止したこともございましたが、令和4年度におきまして

は、無事に予定通り3回の会議を開催することができました。会議の場では、今後の市史編さん事業の方向性等につきましてご議論をいただきました。

引き続きまして、各種事業結果につきましてご報告させていただきます。

まず、「市史編纂資料」の刊行につきましてです。例年作成、刊行を行っている「市史編纂資料」につきまして、令和4年度においては、予定通り「小金井市史編纂資料第62編 梶野新田梶野家文書(5)」を発刊することができました。内容は主に江戸時代の後半の、梶野町にありました梶野新田に関わる古文書です。一部は玉川上水に関わる資料も含まれています。

なお、本資料につきましては、「翻刻」、即ち翻訳をして発刊しております。

続きまして、「古文書調査委託」につきましてです。本事業は、いわゆる古文書を読み解いて活字化する作業を行うものであり、本委員会の委員長でもある根岸氏に毎年度継続的にお願いさせていただいている事業です。令和4年度におきましては、梶野家文書の筆写を行っています。

続きまして、「市民協力員」につきましてです。こちらは、市民の中から、地域の歴史に精通した方を「市民協力員」という形で委嘱させていただいているものですが、令和4年度におきましては、「閑野 寿幸氏」及び「美谷島 恵子氏」の2名に、古文書確認、石造物・地域史資料の調査等の活動を実施していただきました。

続きまして、「多摩郷土誌フェア」につきましてです。本事業は、東京都市社会教育課長会の主催事業であり、多摩地域の市町村が一堂に会し、各自治体が発刊している郷土誌または文化財のブックレット等を即売会形式で販売する図書販売会となっております。本事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響を受け、令和2～3年度におきましては、対面方式での販売会の開催を中止しておりましたが、令和4年度におきましては、3年ぶりに対面方式での販売会を開催することができました。小金井市からは『小金井市史』など、これまでに発刊したものを販売することができました。

続きまして、「文化財保護事業」につきましてです。令和4年度は、文化財センターの秋の企画展におきまして、「梶家文書」の中から「梶家の絵図」というテーマでの企画展示を、令和4年11月1日～12月28日の期間に開催いたしました。その成果の一部につきましては、「文化財センター通信」の中にも記載しております。

また、「地域史講座」につきましては、元・市史編さん事業調査員の「野口 淳氏」を講師に招き、「小金井のあけぼの：旧石器時代の野川流域」というタイトルで、全3回、無事に開催することができました。

続きまして、「貫井遺跡の公開」につきましてです。本事業につきましては、令和5年3月17日、3月21日の2回、それぞれ対象者を分

けて実施いたしました。本事業は、「文化財保護事業」に位置づけられている事業ではございますが、「小金井市史」考古編においては、小金井の遺跡に関し、資料編に纏めていることから、遺跡見学会の中ではそのこともPRをしつつ、特に若年層の市民に地域の歴史を知っていただく、という目的で開催したものです。

3月17日の見学会は近隣の小学生及びその保護者等を対象とし、小学校の授業終了の時間に合わせ、放課後の時間に行いました。

3月21日の事業は、「三楽公園周辺の歴史と自然環境を知ろう」と銘打ち、文化財行政を所管する生涯学習課と、今回発掘調査を行った三楽公園の管理を所管している環境政策課との共催で、両課の連携事業として実施したものです。「遺跡」に限らず、公園を、そして周辺の緑地、豊かな緑を知っていただく機会としていただくことを目指した事業で、事業の成果の1つとして、マップを作成しております。

通常、庁内他部署との共催で事業を実施する機会はあまり多くはありませんが、発掘調査を行ったエリアが公園であったことから、このような大変有意義なイベントを実施することができました。

最後に、「市史編さん委員会」の下に「編集委員会議」を設けております。令和4年度における「編集委員会議」におきましては、令和5年度以降の市史編さん事業の事業計画についてご議論をいただき、「小金井市史」の「ビジュアル版」の作成を今後目指していく、という方向性についてご議論いただきました。

私からの報告は以上です。

牛米副委員長

ありがとうございました。

ただいまご説明いただいた内容につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか？

日高委員

「貫井遺跡の公開」につきまして、事業実施にあたり、広報はどのような形で行われたのでしょうか？

高木主任(学芸員)

本事業の開催場所は、三楽公園内の、非常に狭いエリアであったことから、全力で広報に力を入れてしまうと、会場の収容能力が参加者数に追いつかなくなってしまう事態も想定されたことから、広報としては非常に狭い範囲の地元の地域の方々にチラシをお配りする程度に留め、市報への掲載は敢えてしておりません。ただし、市公式ホームページ、ツイッター等での発信は行いました。実情といたしましては、発掘調査の調査状況や途中経過との兼ね合いで、遺跡の公開を決定したのがかなり直前であったことから、広報が追いつかなかった、という面もございました。

そのため、まずは近隣の小金井市立小金井第四小学校と調整させていただき、令和5年3月17日に、小学校の授業終了の時間に合わせ、放課後の時間に、近隣の小学生及びその保護者等を対象とした遺跡見学会を実施いたしました。そして、令和5年3月21日開催の事業につきましては、小金井市立小金井第四小学校に通う児童の保護者の方、及び近隣にお住まいの地域の方向けという形で、自治会や学校を通じて別途チ

ラシ等にて周知いたしました。そして結果的に、当日は近隣にお住まいの地域の方々に多くご来場いただきました。

日高委員 令和5年3月21日開催の事業にご参加いただいた72名の方々については、ほぼ近隣エリアにお住まいの方ということですね。

高木主任(学芸員) お見込みの通りです。

碓井文化財係長 少し補足させていただきますと、本事業に係る広報周知につきましては、時間的制約ももちろんございましたが、もう一つ、発掘現場が非常に狭い、という実情もございました。そのため、可能であればできる限り多くの方にお越しいただきたい、という思いもありながら、同時に安全性の面でリスクを負うことも難しい、という実情もありましたことから、本事業につきましては、近隣にお住まいの方々、及び近隣小学校に通う児童のご家族の方々を対象とさせていただき、一定絞った形での広報とさせていただきます。

以上です。

牛米副委員長 場所的な制約については、対応がなかなか困難ではあるでしょう。

大熊委員 私からも少し補足させていただきます。今回の発掘現場は、公園内の公共トイレの設置現場でしたので、面積的には2坪程度で大変狭いエリアであったこと、また、場所的にも公園の端の部分であったことから、多くの方にお越しいただいた結果、お越しくくださった方全員にきちんとご覧いただくことができなくなってしまい、という状況だけは避けたかった、という思いがありました。

また、今回の発掘現場において発見されたのは竪穴式住居跡が2件のみであり、令和4年3月に大規模な遺跡見学会を開催させていただいた平代坂遺跡と比較しても、遺構としての規模はかなり小規模であったことから、地域にお住まいの皆様や、近隣の小学校に通う児童の皆様に、地域の歴史にしっかりと触れていただく、ということに主眼を置いて、本事業を実施させていただきました。

さらに、地域にお住まいの皆様も、このエリアの地中には遺跡が眠っている、という事実をよくご存じいただいている、近隣の小学校の児童も、休み時間等に校庭で遊んでいる際に土器の破片を発見し、校長室に持ち込んでくる、ということが日常茶飯事になっている、という状況もあり、決して大規模なイベントではありませんでしたが、その分中身の濃い事業とすることができた、と考えております。

牛米副委員長 そのような「遺跡」や「文化財」が地域に根付いている場所で、このような事業を実施することで、地域の皆様に改めてその重要性を見直していただく、ということは大変意義深いことであると考えます。

他にご意見・ご質問等ございますでしょうか？

委員全員 (特になし)

2 議題

(1) 令和5年度の事業計画について

牛米副委員長 それでは、引き続きまして「2 議題」の「(1) 令和5年度の事業計

高木主任 (学芸員)

画について」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

それでは、「令和5年度の事業計画について」につきまして、私の方からご説明させていただきます。1項目ずつご説明させていただきます。

まず、「市史編さん委員会」につきましてご説明させていただきます。令和5年度におきましては、例年同様、年間3回の会議の開催を予定しております。

第1回につきましては令和5年5月15日に開催させていただき、第2回につきましては令和5年10月の開催、第3回につきましては令和6年2月の開催を予定しております。議事内容といたしましては、引き続き市史編さん事業に関わる内容につきましてのご協議をお願いさせていただくこととなります。また、市史編さんに関わる事業の結果等に関するご報告も合わせて行わせていただきます。

引き続きまして、「編集委員会議」につきましてご説明させていただきます。

編集委員会議は、必要に応じて随時開催させていただく予定です。

内容といたしましては、令和4年度の「市史編さん委員会」及び「編集委員会議」における協議を通じて、今後「ビジュアル版 小金井市史」の刊行を目指していく、という方針は立てさせていただきましたが、そのコンセプトや今後の作成スケジュール、役割分担等の細部につきましては、未だ調整段階でございますので、今後まず、編集委員会議において今後の方向性、中期的な刊行計画及び「ビジュアル版 小金井市史」の構成、レイアウト等を含めてご検討いただければ、と思います。

その他、市史刊行物等についても、細部については編集委員会議の場でご協議をお願いさせていただきます。即ち、令和5年度の編集委員会議の場において、今後の市史刊行物等の中期的な刊行計画についてもご議論をいただきますので、何卒よろしくをお願いいたします。

引き続きまして、「古文書調査委託」につきましてご説明させていただきます。

古文書調査委託につきましては、令和4年度以前に引き続き「梶野家文書」の調査をお願いさせていただきます。現時点においては、5～6割程度の進捗状況となっており、今後も全部で1,000点以上の古文書の調査を進めていきます。

史料調査につきましては、『小金井市史』の編さんに当たり収集した古い史料、及び時代を問わず、近代・現代の古い文献史料につきましては、随時調査を行っております。現在は「梶野家文書」に関する調査を進めているところです。

毎年度刊行している「市史編纂資料」につきましては、令和5年度は「梶野新田梶野家文書」の刊行を予定しております。

引き続きまして、「市民協力員の活動」につきましてご説明させていただきます。

市民協力員につきましては、現在「閑野 寿幸」氏、「美谷島 恵子」

氏にご活動いただいております、各々テーマに沿って市内の資料の調査及び収集にご協力をいただいております。市民の皆様には、市の方から古い資料の収集や市への寄贈・寄託のお願いはさせていただいておりますが、実際の現場の確認等につきましては、市民協力員のお二方にご協力をいただきながら行っており、それを通じて新たな資料が発見されることでもありますので、市民協力員のお二方のご活動は市史編さん事業の肝である、と言っても過言ではないと考えております。

引き続きまして、「調査員の活動」につきましてご説明させていただきます。

調査員につきましては、現在「柏木 一朗」氏にお願いしており、より専門性の高い部分・分野についての調査をお願いしております。今後、収集した資料について内容を解析・分析する際には、この調査員の方を含めて検討させていただく形となります。

引き続きまして、「多摩郷土誌フェア」につきましてご説明させていただきます。

多摩郷土誌フェアにつきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からの開催中止が明けて、令和4年度より対面での開催を再開いたしました。令和5年度も引き続き開催予定となっております。

最後に、「文化財保護事業」につきましてご説明させていただきます。

小金井市内北部を流れる玉川上水沿いに広がるヤマザクラ並木、「名勝小金井（サクラ）」が国の名勝指定を受けたのが1924年で、令和6年（2024年）に名勝指定100周年を迎えることから、市といたしましては現在、令和6年度に「名勝指定100周年記念事業」を執り行わせていただきたい、と考えており、市内の代表的な事業者団体・奉仕団体からなる実行委員会を立ち上げさせていただきました。

今後、令和6年12月9日の名勝指定100周年記念日当日に向けて、実行委員会の中で様々なご意見・ご議論をいただきながら様々な記念事業を展開することで、「名勝小金井桜」の文化財としての価値を改めて見直す貴重な機会とすると同時に、市が東京都や市民団体と連携し、整備事業を進めてきた玉川上水・小金井桜の、整備事業の結果としての整備状況をご覧いただく機会とすることも目指しています。

また、「名勝小金井桜」の存在や歴史をこの機会により多くの方に知っていただく機会としていくことももちろんですが、次世代に向けて貴重な歴史的遺産を残していく、そしてそれらを通じて、小金井市の魅力をPRしていくこと、小金井市が盛り上げていくことが本事業の最終的な目的となりますので、それに向けて今後、小金井市市史編さん事業において作成した「小金井市史 資料編 小金井桜」等も活用させていただきたいと考えております。

私からの説明は以上です。

牛米副委員長

ありがとうございました。

ただいま、令和5年度の事業計画につきまして事務局からご説明をい

ただきましたが、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか？

市史編さん事業につきまして、これまで編集委員会議におきまして、今後、「ビジュアル版 小金井市史」として、子どもの学校教育の場においても活用できるようなものを刊行できないか、ということを検討してきましたが、「ビジュアル版 小金井市史」に関する議論につきましては、令和5年度におきましても、編集委員会議の場でより具体的な議論を進めていく、という形になるのでしょうか？

高木主任 (学芸員)

牛込委員のおっしゃるとおりで、今後、編集委員会議において、事務局よりある程度のテーマを設けさせていただきながら、参考資料等も作成させていただきつつ、まずはじっくりとビジョンを固めることを目指し、ご議論をお願いさせていただき、令和5年度につきましてはそのような1年にしてまいりたい、と考えております。

牛米副委員長

分かりました。編集委員会議につきましては、今後、委員の皆様とのご相談やすり合わせを進めていっていただければ、と思います。

他にご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

大熊委員

現在、市立小学校に通う児童の皆さんが小金井市の歴史に触れる機会としては、小学校4年生用の教材である「わたしたちの小金井」という冊子が最後になっており、児童の皆さんがそれ以上「小金井市の歴史について知りたい。」と考えたとしても、それ以上の資料がない、というのが実情です。それからさらに興味を深めた中学生の生徒の皆さんが市史に触れる場合、「小金井市史」で調べることになりますが、「小金井市史」は大人でも読み解くことが難しいレベルであり、中学生の生徒の皆さんにはかなりハードルが高い、と言わざるを得ません。

そういった現状がある中で、児童・生徒の皆さんが小金井市の歴史について学び進める上での階段が非常に高くなってしまっている中で、「ビジュアル版 小金井市史」を作成することで、児童・生徒の皆さんはもちろん、一般の市民の皆様にも、『市史』に興味を持っていただく、学ぶきっかけとなれば、と考えています。同時に、「小金井市の歴史について知りたい。」と考える児童・生徒の皆さんに対し、「市ではこんな資料を作成しています。」と提示する、という形ではなく、インターネット等で自主的に資料を収集し、学ぶことができる状態になっている、ということが大変重要であると考えています。

刊行手法として、紙の冊子とするのか、或いはPDF版をインターネット上で公開する形にするのか、そういった部分も含めて今後ご検討をお願いできれば、と考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

牛米副委員長

今の熊委員のお話ですと、個人的には「紙媒体の刊行物」という形を想定していたのですが、刊行手法としてインターネット等、別の形も含めて今後検討していく、という形でもよろしいのでしょうか？

大熊委員

紙媒体、という形ですと、児童・生徒の皆さんが「小金井市の歴史について学びたい。」と考え、自分で調べていく際に、「図書館に行かなければならない。」「学校に3冊しかない。」という状況になってしま

い、児童・生徒の皆さんの「個別最適化」が叶うのが非常に難しくなってしまう、と考えています。そういった点はもちろん、改訂作業の際の利便性、という観点からもインターネット上のホームページへの掲載についてご検討いただければ、と考えているところです。

そして、個人的に最大の狙いとしているのは、児童・生徒の皆さんが「クリック1回」で小金井市の歴史について学ぶ上での階段を1段上がることができる、そういった環境づくりができれば、と考えています。

その階段をより上がりやすくするためにはどのようなものがよいのか、その部分の検討は編集委員の専門家の皆様をお願いさせていただければ、と考えておりますが、1つ市として、教育委員会としての狙いはそういった部分にある、ということも念頭にご検討いただければ、と考えております。

牛米副委員長 ただ今の大熊委員のお話につきまして、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

委員全員 (特になし)

牛米副委員長 「ビジュアル版 小金井市史」の作成につきましては、令和5年度における一大事業の1つになると認識しておりますので、編集委員の皆様におかれましては、ご協力をお願いさせていただく形になると思いますが、何卒よろしくお願ひいたします。

また、ご説明いただきましたその他の事業につきましても、市史編さん事業が一段落した後も、「市史編さん資料」の刊行や、資料調査等の市民協力員の皆様の活動を例年通り継続している、というのは非常に意義深いこと、と考えております。

それでは改めまして、「令和5年度の事業計画について」につきまして、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

日高委員 先ほどの大熊委員のお話に関してですが、個人的には「ビジュアル版 小金井市史」については、「小金井市史」のホームページ版を作成するようなイメージを抱いていたところです。「小金井市史」のホームページを作成し、その中にコンテンツとして、市史編さん事業の中で収集した多くの資料につき、古文書等も含めデジタル化したものがアップロードされている、そういったものをイメージしていました。

「考古」を例にさせていただきますと、市史編さん事業における調査の際に、かなり高精細の写真の撮影を行っていた経過がある一方、「小金井市史」の冊子の中には、そのごく一部しか掲載されておらず、DVDの形ではつけられているに過ぎません。せっかくの貴重なそれらのデータをホームページ上で検索し、閲覧することができれば、さらにそれらのデータと「小金井市史」をリンクで繋げ、ページ数がすぐ分かるような形になっているような形がベストなのではないか、と考えています。

ただし、そのようなホームページを作成する場合、相当な容量が必要になると見込まれますので、小金井市の公式ホームページ内に一コンテンツとして作成する、という形はおそらく難しい、と考えますし、技術

的にもおそらく専門業者に委託するレベルのものになるかと思しますので、そういった部分の対応についても検討させていただきながら、同時に内容についても検討していく、そのような形で進めていくのがよいのでは、と考えます。

もちろん、「ホームページ」という形に無理やり拘る、ということではないですが、時代の要請に沿った形、ということを考えるのであれば、やはりインターネットで検索できる形がベストではないか、と考えますので、内容面はもちろん、そういった刊行手法に関する部分につきましても、今後編集委員の皆様のご意見もお伺いさせていただきながら進めていければ、と考えています。

牛米副委員長 ありがとうございます。他にご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

中嶋委員 私自身、何かを調べる際にはインターネットを活用することが多く、現代の小・中学生が何か調べ物をする、という前提に立つと、先ほどの大熊委員のお話は大変よく理解できますし、インターネット上のホームページへの掲載については必要ではないか、と考えます。

そして、私は現在、ある大学の年史編さん事業に携わらせていただいておりますが、その事業の中でもインターネット上のホームページへの掲載を行っています。ただ、膨大な量の資料のデータ化はかなり技術的なハードルも高く、業務委託を行う際の委託料も相応の予算措置が必要になりますし、請け負うことができる事業者も一定限られますので、そういった部分についてもより具体的な検討が必要になると思います。

大熊委員 現在、本市の文化財センターには非常に多くの貴重な文化財が保管されていますが、それらが常に閲覧可能な状況にあるかというところではなく、本当に貴重な文化財資料は、年2回開催している企画展の期間内においてのみ展示することができている、というのが実情です。

それらの文化財資料については、仮に通常のカメラで撮影した写真データをインターネット上に掲載しても、閲覧に堪える質の画像にはなりません。先ほど日高委員よりご指摘のあった高精細の機材で撮影した写真ですと、例えば古文書についてはズームアップして細かい文字まで読み取ることができますし、土器については3Dで回転させながら見ることも可能です。

現在、近隣市の三鷹市においては実際にそのような事例があり、当然相応の予算措置が前提となる事業ではございますが、教育委員会といたしましてはぜひ検討していきたい、と考えております。

神山委員 ただいま委員の皆様からご意見をいただきました中で、文化財資料のデータベース化には相応の予算措置が必要となる、ということにつきましてはよく理解できましたが、その規模につきましては、そのレベル感によって大きく変わってくると思いますので、具体的な内容につきましては、まず編集委員会議の場でご議論をいただいた上で、案を出していただきながら調整させていただく形になるのでは、と思います。

「ビジュアル版 小金井市史」や文化財資料のデータベース等を公開

するホームページができ、それを現在小金井市が有している資産の有効活用によく繋げることができれば、文化財資料に限らず、さまざまな分野の市の資産の活用にも繋がっていく可能性もある話なのではないか、という印象は持っていますので、現状では予算面につきまして確約できる状況ではございませんが、今後様々な前提について編集委員会議の場で広くご議論をいただければ、と考えております。

私からは以上です。

牛米副委員長

ありがとうございました。

議論の始まりは「ビジュアル版 小金井市史」のPDF版のホームページ上での公開についてでしたが、その手法は「市史」という分野に留まらず、様々な分野において活用していくことができる可能性があるのではないかと、当然事業化に際しては相応の予算措置が前提となりますが、そのレベル感も含めて、今後編集委員会議の中で少し広めに議論を進めていく、という形ではよろしいでしょうか？

(委員全員)

(異議なし)

牛米副委員長

他にご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

井上委員

個人的には、「非常に夢のある話なのではないか。」という印象を持ちました。

例えば、私自身も「市史」を通して知ったのですが、市内の栗山公園の「栗山」の名前の由来は、その場所に大きな栗の木が存在していたことに由来している、といったような話を知ることから始めることができる土壌を整えば、世代や市内在住期間等に関わらず、「市史」に楽しく触れていただくことができるのでは、と考えます。

予算面や技術面の細かい話は正直よくわかりませんが、ホームページを作成することによって可能性は広がっていくのでは、というイメージは具体的に抱くことができますし、そのようなちょっとした部分から、何ができるのか検討していくことは大切ではないか、と考えました。

大熊委員

現在市では、令和6年12月9日の「名勝小金井(サクラ)名勝指定100周年記念」に向けた様々な事業を計画していますが、「市史」の中には、「小金井」にあるから「小金井桜」という名がついたのではなく、桜があったからこそ現在のJR武蔵小金井駅ができた、即ち、「小金井桜」は小金井のまちの発展の礎のような存在である、という史実もしっかりと書かれており、だからこそ、市としても今後も「名勝小金井(サクラ)」の存在を大切にしていかなければいけない、と考えますし、この記念事業を通じて、そのような市の歴史についても、多くの方に知っていただきたい、と考えています。個人的には、「歴史を知る」ということは「昔を知る」ということではなく、「未来を想像する」ことであると考えておりますので、「ビジュアル版 小金井市史」や文化財資料のデータベース等を公開するホームページができることによって、何時でも、誰でも「小金井市の歴史」に触れることができるようになることで、「未来を想像する」ことに繋げてまいりたいと考えております。

牛米副委員長

非常に壮大な話ではございますが、今後、事務局も交えまして、編集

委員会議の場で検討を進めていければ、と考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、他にご意見・ご質問等ございませんでしょうか？

(委員全員)

(特になし)

3 その他

(1) 梶家文書（寄託資料）の点検作業について

牛米副委員長 それでは、「3 その他」の「(1) 梶家文書（寄託資料）の点検作業について」につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

高木主任（学芸員） それでは、「(1) 梶家文書（寄託資料）の点検作業について」につきまして、まずこれまでの経過を私の方からご説明させていただきます。

「梶家文書」につきましては、江戸時代の文献史料の中では、小金井市においては一級資料に位置付けられているもので、江戸時代の小金井村の、特に初期の史料が豊富に残っており、小金井市内においては非常に重要な文献史料群です。その「梶家文書」につきまして、所有者である梶家より、令和4年度に「寄託」という形で一式をお預かりさせていただいています。梶家では、近年ご当主の方が替われ、新しいご当主の方とご相談をさせていただく中で、「市史編さん事業において資料としてご活用いただければ。」というお言葉をいただき、現在は小金井市文化財センターにおいて保管し、内容について確認作業を進めさせていただいています。

その一部につきましては、令和4年の秋の企画展「梶家の絵図」において公開させていただいており、また、「令和4年度 文化財センター通信 No. 3」においても、「このような重要な古地図があるからこそ、小金井の歴史を紐解くことができる。」ということを紹介させていただいています。

「梶家文書」についてのこれまでの調査において「小金井村全図」が発見されており、現在の小金井市域に当たるエリアの江戸時代の地図が、パーツが少しずつ揃ってきています。それぞれの地図は、当時の各村において作成していたものですので、比較的正確なものであり、発見された「小金井村全図」につきましても、明治8年当時のものですので、基本的には江戸時代の内容を踏襲しているものであることは間違いないと考えています。

このような形で、絵図資料につきましては先行して少しずつではございますが調査を進めております。

「梶家文書」は基本的には、「梶家」にまつわる江戸時代の古文書の総称です。現在までのところ、「梶家」においては江戸時代以前の中世、いわゆる室町時代以前の史料については確認されておりません。その点は今後の課題ではございますが、小金井市内において梶家は重要な古い家柄ですので、今後も調査を続けていきたいと思っております。

資料の寄託をいただきましたので、それに際して根岸委員長及び小金井市文化財保護審議会委員の太田委員に内容点検をお願いさせていた

いただきました。

それでは、その際にご確認いただいた内容につきまして、根岸委員長よりご説明をお願いいたします。

根岸委員長

梶家文書を拝見いたしました。『小金井市史 近世 資料編』の執筆にあたり、「梶家文書」の内容を参考にさせていただきたい、と考えておりましたが、当時はその望みは叶いませんでした。ただし、重要な史料として知られていたものでしたので、内容を拝見させていただき、まず、近世初期以来の古い史料が多く残っていたことに非常に感銘を受けました。

そして、梶家は中世の時代から小金井市域に土地を所有している、おそらく小金井市域で一番古い家柄であり、また修験としても一族がいた家でもあったことから、小金井の中世からの系譜が分かる家でもありました。だからこそ、市史編さん事業の際に「梶家文書」の内容を拝見できなかったことは非常に残念だったのですが、今回その内容を拝見させていただいて、近世初期からの史料だけではなく、享保期の開発の際に、梶家が梶野家を分家し、そして梶野新田を築いていった、現在翻刻作業中の、約2,000点の史料からなる「梶野新田梶野家文書」の前段階の経過がよく分かる史料も含まれていました。

「梶家文書」につきましては、可能であれば是非全文の翻刻作業を行い、その結果を早く公開することで、今後の市史に関する調査・研究に活用していただくのがいいのではないかと、思います。

私からは以上です。

牛米副委員長

ありがとうございました。

ただいま、根岸委員長及び事務局より、「梶家文書」に関する調査についてご報告をいただきましたが、何かご意見・ご質問等ございますでしょうか？

市史編さん事業の際は「梶野家文書」を参考にさせていただきましたが、やはり現在までに確認されている中で、小金井市域においてもっとも古い文書である「梶家文書」についての調査を開始することができた、というのは感慨深いものがあります。

本件につきましては、現時点においては「報告」という受け止めでよいのでしょうか？

高木主任 (学芸員)

現時点においてはそれで問題ございません。「梶家文書」の重要性については、ただいま根岸委員からもご説明をいただきましたので、市といたしましては、今後、「梶家文書」に関する調査の計画を立てつつ、場合によっては、時代毎にそれぞれご専門の委員の皆様にご協力をお願いさせていただく可能性もあるかと思っておりますので、事前のご報告、という形でご理解を賜れば、と思っております。

本件につきましては、「市史編さん事業」のみの話に留まらず、「市史編さん事業」の中で調査を行った上で、「史料としての重要性について議論が必要」という判断に至った場合、「市指定有形文化財」への指定も視野に、小金井市文化財保護審議会においてもご審議をいただくこ

とも考えられますが、まずは「市史編さん事業」において基礎調査をしっかりと進めていくべき、というご見解を小金井市文化財保護審議会の太田委員からいただいております。

牛米副委員長

わかりました。これまで内容を拝見する機会を得られなかった貴重な史料を「寄託」という形でお預かりさせていただくことができましたので、「市史編さん事業」に携わる我々といたしましても、その歴史的価値も含めてきちんと調査を行い、その上でその価値を守っていくことが必要であると考えております。

本日の議題といたしましては以上となりますが、全体を通しまして、何か委員の皆様からご意見・ご質問等はございませんでしょうか？

大熊委員

本市の文化財行政におきましては、令和5年度は大きな動きが2点ございます。1点目は「名勝小金井（サクラ）名勝指定100周年記念事業」、そして2点目は、小金井市内に活動拠点を有する「江戸糸あやつり人形 結城座」に関する調査報告書作成業務でございます。「結城座」に関する調査報告書作成業務につきましては、3～5年程度の長期的な事業となりますが、まずは「これだけの長い歴史を持つ無形文化財が小金井市に存在している。」ということを少しでも多くの市民の皆様にご覧いただくことからのスタートになるかと思っておりますが、それらの事業につきましても、今後本委員会におきましても事業の進捗状況の報告は随時行わせていただきますので、市史編さん委員会の委員の皆様におかれましても、お力添えをお願いさせていただく場面などございましたら、その際は何卒よろしくお願いたします。

牛米副委員長

ただいま大熊委員よりご紹介をいただきました「江戸糸あやつり人形 結城座」に関する調査報告書作成業務につきましても、今後委員の皆様にとりましていろいろとご協力をいただくことがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いたします。

ほかに全体を通しましてご意見・ご質問等ございますでしょうか？

(委員全員)

(特になし)

4 次回の市史編さん委員会日程

碓井文化財係長

それでは、令和5年度第2回市史編さん委員会の会議日程につきまして、私からご説明させていただきます。

令和5年度第2回市史編さん委員会につきましては、令和5年10月2日（月） 14時から、小金井市役所第二庁舎8階 801会議室にて開催させていただきたいと思っておりますが、皆様、ご都合はいかがでしょうか？

(委員全員)

(異議なし)

碓井文化財係長

それでは、開催時期が近くなりましたら開催通知等を送付させていただきますので、何卒よろしくお願いたします。

それでは、本日もお忙しいところ市史編さん委員会にご出席賜りましてありがとうございます。